



にしのみや環境サポート協同組合

Nishinomiya Environment Support Cooperative

# 50周年記念誌



にしのみや環境サポート協同組合

# 50周年記念誌

1974—2024





|                    |   |
|--------------------|---|
| 代表理事挨拶 .....       | 1 |
| 西宮市長祝辞 .....       | 2 |
| 西宮市環境局長祝辞 .....    | 3 |
| 西宮商工会議所会頭祝辞 .....  | 4 |
| 沿革 ～組合の足跡～ .....   | 5 |
| コロナ禍を経て .....      | 7 |
| 50周年記念若手社長対談 ..... | 9 |

|                         |    |
|-------------------------|----|
| 株式会社大栄衛生 .....          | 17 |
| 株式会社大協 .....            | 19 |
| 株式会社ヤマサ環境エンジニアリング ..... | 21 |
| 中澤総業株式会社 .....          | 23 |
| 有限会社兵庫陸運 .....          | 25 |
| 株式会社ダストマンサービス .....     | 27 |
| 西宮清掃事業協同組合設立趣意書 .....   | 29 |

### 西宮市と共に50年



にしのみや環境サポート協同組合が設立から50年を迎えられた事に、西宮市を始めとする関係各位に心よりお礼と感謝を申し上げます。

また、先人達からのお言葉として「相互理解で団結し一層の発展を祈念する」を胸に半世紀に渡り市民のインフラ及び市内事業所の廃棄物処理を誇りを持って行ってまいりました。

阪神大震災では、市民の皆様のご理解と協力を得て、また、全国からの応援も頂き想定を超える早さの復旧ができました。新型コロナウイルス感染症では出口が見えない中での長期戦でした。クラスター感染に最大限の注意を払い、組合員は一丸となり毎日、緊張感を持ちながら戦って参りました。市民の皆様や事業者の方々からは応援のメッセージや温かい声を掛けていただいた事でエッセンシャルワーカーとしての強い責任感と勇気が湧いた事を思い出します。

さて、時は止まる事なく、時間はスピードを増して過ぎていきます。

社会が大きく変わろうとする中で、西宮市も住みたい街として成長しつづけてはなりません。このすばらしい住環境を未来の子供達に残すお手伝いをする事に最大限の努力を惜しまない所存です。

西宮市は来年、市政100年を迎えます。これからも「にしのみや環境サポート協同組合」はエッセンシャルワーカーとして誇りと責任を持って西宮市と共に邁進して行く事をお誓い申し上げ、挨拶いたします。

令和 6 年 10 月吉日

にしのみや環境サポート協同組合  
代表理事 **阪本 貴良**

## 設立50周年を祝して



にしのみや環境サポート協同組合が記念すべき設立50周年を迎えられましたことを心よりお喜び申し上げます。

貴組合におかれましては、設立当初より本市の環境施策の推進に多大なるご協力を頂戴してまいりましたが、これもひとえに阪本代表理事をはじめ、各理事、組合員の皆様の50年に亘り築いてこられた「わがまちにしのみや」への愛情と地道な活動の賜物と感謝申し上げる次第でございます。

貴組合は昭和49年に「わがまちをきれいに」という志を同じくした5社のもと西宮清掃事業協同組合として発足され、平成10年度には6社体制へ、また平成28年には新たな時代のニーズへの対応と市民と行政の良きパートナーとなることを目指し「にしのみや環境サポート協同組合」に改称されるなど、着実に発展してこられました。

本市では、平成15年に行った全国初となる「環境学習都市宣言」が、令和5年度に20周年を迎え、西宮の良好な環境を未来へ引き継いでいくため、環境学習を通じた持続可能なまちづくりをめざし邁進しているところです。また、西宮市一般廃棄物処理基本計画に基づき、リデュース・リユースの2Rの優先的な実践など、さらなるごみの減量と再資源化に取り組んでいます。

本市は令和7年に市制100周年を迎えますが、引き続きごみの減量のみならず、循環型社会実現のため、環境行政へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、にしのみや環境サポート協同組合が設立50周年を一つの区切りとし、今後ますます発展されますことを心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

令和6年10月吉日

西宮市長 石井 登志郎

## 設立50周年を祝して



にしのみや環境サポート協同組合が設立から50周年を迎えられましたこと心よりお慶び申し上げます。

貴組合におかれましては、日々の生活系一般ごみの収集業務のみならず、平成27年には災害時における一般廃棄物の円滑な収集運搬に関する応援協定を本市と締結頂いております。

ふり返れば、貴組合におかれましては、阪神淡路大震災発災直後からの可燃ごみの収集、また本年1月1日に発生した能登半島地震では被災された皆様への義援金による支援など、本市環境行政の一翼を担われる傍ら、災害発生にあっては社会貢献に寄与されるなど、その誠実なご対応に頭が下がりますとともに大変心強く感じている次第です。

さて本市では、令和5年度より生活系ごみ収集運搬業務を安定した市民サービスを継続的に提供する趣旨から、従前の指名競争入札を特命随意契約に変更いたしました。おかげさまで生活系ごみの収集にあっては市民サービスの向上のみならず、指定ごみ袋制度の導入とともにごみの減量にも寄与頂いております。

また令和8年度より予定しております分別区分等の変更では、資源化率の向上や市民への負担軽減も考慮に入れており、本市環境行政の向上に引き続きのご協力を切に願うところでです。

結びになりますが、にしのみや環境サポート協同組合の更なるご発展と、会員の皆様方のますますのご健勝とご活躍を心から祈念しまして、設立50周年にあたってのお祝いの言葉とさせていただきます。

令和 6 年 10 月 吉日

西宮市環境局長 **大西 貴之**

### にしのみや環境サポート協同組合 設立50周年を祝して



にしのみや環境サポート協同組合が設立50周年という節目の年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

貴組合は、昭和49年11月にごみ収集事業を営む事業者が集結し、西宮清掃事業協同組合を設立され、以来、半世紀にわたり地域住民の皆様の生活環境を守り、街の美化に貢献されてきました。

この間、廃棄物を取り巻く状況は大きく変化してきました。将来にわたって良好な環境と限られた資源を有効に活用し未来に引き継いでいくため、ごみの抑制、再利用、再資源化いわゆる3R（リデュース、リユース、リサイクル）を推進し「循環型社会」を目指すことが大切です。こうしたことに応えるため平成28年11月に貴組合は名称を「にしのみや環境サポート協同組合」に変更され、これからも循環型まちづくりを市民・事業者と協働して推進していくと表明されました。

50周年という節目を迎えた今、改めて貴組合のこれまでの功績を振り返るとともに、今後ますます発展することを心より期待しております。

近年、地球温暖化や海洋汚染などの環境問題は、人類にとって喫緊の課題となっています。私たち一人ひとりが、地球環境保全に意識を向け、行動を起こしていくことが求められています。このため、ケニアのことわざである「地球を大切にしないで、それは親からもらったものではなく、子供たちから借りているものだから」をスローガンに掲げ、取り組みを推進しようとしている貴組合に商工会議所としても賛意を表すものです。

貴組合は、長年にわたって培ってきた専門知識と経験を活かし、地域における環境問題解決に向けて、今後もリーダーシップを発揮されることを期待しております。

結びに、にしのみや環境サポート協同組合のますますのご発展と組合員企業のご繁栄をお祈り申し上げ、祝辞とさせていただきます。

令和6年10月吉日

西宮商工会議所会頭 **森本 直樹**

# 沿革 ～組合の足跡～

## 50周年までの主な出来事

(1974年～2024年)

### 第1期 設立期／1974年（昭和49年）～1984年（昭和59年）度

1974年（昭和49年） 市立勤労会館で設立総会  
組合設立をめざす5人の実業家が集結 設立総会を開催  
定款の制定、事業計画および収支予算、経費の賦課及びその徴収方法、役員の選挙、組合事務所の設置などを決定

### 第2期 安定期／1985年（昭和60年）～1994年（平成6年）度

1985年（昭和60年） 西宮市との間で  
（イ）ごみ収集量の増加に関する諸問題 （ロ）収集の効率化について  
（ハ）委託料の増について （ニ）消費税の上乗せについて  
（ホ）事業系ごみの対応について  
などについて協議

### 第3期 発展期／1995年（平成7年）～2004年（平成16年）度

1995年（平成7年） 1月17日 午前5時46分。阪神・淡路大震災発生  
甚大な被害を被る中、組合は震災2日後の1月19日、可燃ごみの収集を開始。1月23日には不燃ごみの収集も開始した  
応援に駆けつけていただいた自治体は43市12町1村、延べ3,456人  
収集車は、1,188台にのぼった

1997年（平成9年） 兵庫県中小企業団体中央会の補助を受け、「組合事業活性化ビジョン」について調査「地球温暖化京都会議」開催に合わせ、地球環境問題とごみ問題を同じ視点で考える  
「容器包装リサイクル法」が施行、ごみの排出抑制、減量化、資源化を図るため、もやすごみ週2回、もやさないごみ週1回、資源ごみA月1回、資源ごみB月2回の分別収集を実施

1998年（平成10年） （有）ダストマンサービスが新規参入。25年を経て6社に

1999年（平成11年） 阪急神戸線以南の地域でペットボトルの分別収集を実施

2001年（平成13年） 市内全域でペットボトルの分別収集を実施

2002年（平成14年） ごみステーションまでのごみ出しが困難なひとり暮らしの高齢者・障害者世帯を対象に、玄関先まで収集に行く、「にこやか収集」を実施

2004年（平成16年） 阪急神戸線以南の一部が、委託地域に編入  
5年計画で、国道2号線までが委託地域となる

### 第4期 挑戦期／2005年（平成17年）～2015年（平成27年）度

2008年（平成20年） 西宮市ごみ減量推進計画“チャレンジ西宮25”策定  
市内小学4年生を対象とした「出前授業」がスタート

- 2011年(平成23年) 市内全域で、もやすごみの午前収集開始
- 2013年(平成25年) 直営収集地区よりその他プラスチック製容器包装の分別収集開始  
市内全域でその他プラスチック製容器包装の分別収集開始
- 2014年(平成26年) 高須町・鳴尾浜・甲子園浜・西宮浜地区の収集業務を業者委託開始
- 2015年(平成27年) 西宮市と西宮清掃事業協同組合で災害時における被災場所や避難場所等で排出される生活系一般廃棄物収集運搬に関する協定を締結



出前授業の様子



出前授業の様子

## 第5期 改革期／2016年(平成28年)～2024年(令和6年)度

- 2016年(平成28年) 「西宮清掃事業協同組合」から「にしのみや環境サポート協同組合」に名称変更  
西宮市とにしのみや環境サポート協同組合で「西宮市地域防災サポーター」登録団体に認定
- 2017年(平成29年) 西宮浜・鳴尾浜事業系古紙モデル地区試験収集開始  
西宮市一般廃棄物処理基本計画改定に関する「廃棄物減量推進部会」の設置
- 2018年(平成30年) 鳴尾浜ロジスティック特定目的会社（GLP鳴尾浜）と津波発生時における緊急避難場所としての使用に関する協定の締結
- 2018年(平成30年) 南海トラフ巨大地震を想定した「平成30年度 西宮市総合防災訓練」への参加



防災訓練



防災訓練

- 2019年(平成31年) 西宮市ごみ減量推進計画“チャレンジ西宮25”終了、第7次一般廃棄物処理基本計画の策定
- 2022年(令和4年) 生活系「もやすごみ」と「その他プラ」、事業系「可燃ごみ」の指定ごみ袋制度導入開始
- 2025年(令和7年) 1月4日より西宮市総合処理センターへの再資源化可能な事業系古紙類の搬入が禁止に

## 歴代理事長・事務局長

|          | 理 事 長 | 事 務 局 長 |          | 理 事 長 | 事 務 局 長 |
|----------|-------|---------|----------|-------|---------|
| 第1期～3期   | 阪本 紘  | 難波 義一   | 第33期～35期 | 阪本 貴良 |         |
| 第4期～19期  | 村上 魁  |         | 第36期～41期 | 赤澤 健一 | 田所 克己   |
| 第20期～26期 | 加藤 和丕 |         | 第42期     | 西岡 恵市 | 田所 克己   |
| 第27期～30期 | 元田 五郎 |         | 第43期～44期 | 寺崎 大三 | 池谷敬一郎   |
| 第31期～32期 | 森本 豊  |         | 第45期～50期 | 阪本 貴良 | 北野 勇美   |

# コロナ禍を経て

## 「事業を継続すること」を使命に エッセンシャルワーカーとして市民の日常を守る

世界的パンデミックを引き起こした新型コロナウイルス感染症の流行。

社会のあり方そのものが問われる事態のなか、にしのみや環境サポート協同組合では各社が団結し業務遂行に尽力しました。

困難の連続であったと同時に新たな発見や変化をもたらしたコロナ禍の動きを振り返り、にしのみや環境サポート協同組合の今後へとつなげます。

### 暗中模索の日々の始まり 苦難が続いたコロナ対策

新型コロナウイルスが国内で初めて確認されたのは2020年1月のこと。4月には兵庫県を含む全国7都府県に緊急事態宣言が発出されるなか、にしのみや環境サポート協同組合各社はまず感染対策に必要なマスクやアルコール消毒液の確保に奔走しました。

クラスター（感染者集団）を発生させると業務停止になるため、業界としては「クラスターにならない」ということを大前提に感染予防を徹底しましたが、ごみの収集の車内は密室です。感染のリスクに怯えながらの収集作業が続きました。未知のウイルスへの恐怖は大きく、同居家族に高齢者を抱える従業員のケアも必要でした。

万一いずれかの事業所が業務停止に至った場合は、家庭ごみの収集は組合内で補完し合うことを取り決めて西宮市のできたほか、事業系ごみについても組合内で絶えず情報を共有するといった協力体制を早期に取りました。

### 国のガイドラインに沿って 試行錯誤しつつ対応

2020年5月になると、西宮市経由で国のコロナ対策ガイドラインが示されました。その内容を組合事務局から各社に伝え、各社はそれぞれの状況に応じた形で「終業時間を早める」「密にならないよう間隔を空けて休憩する」「ミーティングは外で行う」といった対策を実施しました。組合会は毎月開催し、市にマスクやアルコー

ル消毒液の提供を要望するなど、市と現場をつなぐ役割を果たしました。

病院や介護施設でのごみ収集にはコロナ関連のごみも含まれていましたが、不満を訴えるドライバーはいませんでした。ごみ収集はどんな状況でも止めることができない社会にとって必要不可欠な仕事。厳しい状況のなかで改めて実感できたことが従業員のやりがいにつながっていきました。



### 市民からの感謝の言葉に 責任感と誇りを再認識

2021年2月には待望のワクチン接種が始まり、エッセンシャルワーカーは優先接種を受けることができました。優先接種の対象となったことで、各社従業員には市民のためという責任感も生まれました。

一方、度重なる緊急事態発出を受けて事業系のごみは大きく減少。各社とも売り上げを減らした反面、ステイホームの影響で家庭ごみは増加しました。マスク

着用での作業は大変で、特に夏場に窓を開けエアコンも効かないなかでの収集作業は過酷を極めました。

こうした現場の奮闘に対して、元小泉進次郎環境大臣より感謝状が届いたことには大いに勇気づけられました。同様に市民やお客様から感謝のメールが届いたり、声をかけられたりすることも増えていきました。ごみ袋に貼り付けられたお礼のメッセージは作業員が各社に持ち帰って喜びを共有しました。



市民から寄せられた感謝の手紙

## 想定外を想定して 安全・安心・確実を

真っ暗なトンネルを無我夢中で走るような3年間は、2023年5月の5類移行を受けてひと区切りがつかしました。苦難続きでしたが、人々の暮らしを支えるエッセンシャルワーカーが社会的に認知され、従業員のプライドとモチベーションにつながったことには大きな意味がありました。あわせて、組合員6社が連携するより強固な基盤ができたことも確かです。

阪神・淡路大震災を経験し、新型コロナウイルスの脅威を乗り越えた今、次に考えるべきは想定外の事態を想定しておくことでしょう。南海トラフを筆頭とする災害への準備も必要です。1社ではできないことこそ組合で一致団結して取り組む必要があります。私たちの事業は地域密着型です。顔の見える関係のお客様、市民の皆様のために、いかなるときも安心・安全・確実を提供できる体制の確立を目指します。

## 新型コロナウイルス感染症に関する主な出来事(2020年1月～23年5月)

### 2020年(令和2年)

- 1月 9日 WHOが中国湖北省武漢市の原因不明肺炎は新型コロナウイルスの可能性があると発表
- 15日 国内で初の感染者
- 30日 新型コロナウイルス感染症対策本部を設置
- 2月 11日 WHOが新型コロナウイルスをSARS-CoV-2、それによる感染症をCOVID-19と命名
- 3月 2日 新型コロナウイルス感染症対策のための小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における一斉臨時休業開始
- 11日 WHO、「世界的流行(パンデミック)」を宣言
- 4月 7日 緊急事態宣言の発出(兵庫県 ～5/21(木))
- 22日 Go Toトラベル事業の開始
- 7月 18日 米ファイザーが厚生労働省にワクチンを承認申請
- 12月 28日 Go Toトラベル事業の全国一斉停止

### 2021年(令和3年)

- 1月 14日 緊急事態宣言の発出(兵庫県 ～2/28(日))
- 2月 2日 緊急事態宣言の期限を3月7日まで延長(栃木県を除く10都府県)
- 14日 ファイザー製ワクチンを特例承認
- 17日 医療従事者等のワクチン先行・優先接種開始
- 3月 18日 緊急事態を終了(21日をもって)
- 4月 5日 初のまん延防止等重点措置の実施(兵庫県 ～4/24(土))

- 4月 12日 高齢者のワクチン優先接種開始
- 25日 緊急事態宣言の発出(兵庫県 ～6/20(日))
- 5月 21日 モデルナとアストラゼネカ製ワクチンを特例承認
- 24日 J&J製ワクチンを特例承認
- 6月 1日 ファイザー製ワクチンの接種対象を12歳以上に拡大
- 21日 まん延防止等重点措置の発出(兵庫県 ～7/11(日))
- 7月 23日 東京オリンピック開催(7月23日～8月8日)
- 8月 2日 まん延防止等重点措置の発出(兵庫県 ～8/19(木))
- 20日 緊急事態宣言の発出(兵庫県 ～9/30(木))
- 12月 1日 ワクチンの追加接種開始

### 2022年(令和4年)

- 1月 27日 まん延防止等重点措置の発出(兵庫県 ～3/21(月))

### 2023年(令和5年)

- 5月 8日 感染法上の位置付けが2類から季節性インフルエンザと同じ5類に移行

## 50周年記念若手社長対談

### にしのみや環境サポート協同組合 若手トップが描く西宮市の環境と未来

時代は、限りある資源を効率的に活用し、持続可能な形で循環させる「循環型社会」へ。廃棄物をめぐる情勢が様変わりしています。

西宮市でも2021年に「2050年ゼロカーボンシティ」「プラスチックごみ削減運動の推進」を表明しました。

時代の転換期にあって、にしのみや環境サポート協同組合はどうあるべきなのでしょう。

次代を担う若手社長が未来に向けた展望を語り合いました。





## 中澤総業株式会社

代表取締役

北 本 至

1983年生まれ  
会社員を経て2011年4月に入社  
4代目として2021年4月に社長に就任



## 株式会社ダストマンサービス

代表取締役社長

西 岡 巧 貴

1993年生まれ  
高校卒業後、2011年4月に入社  
2022年4月に2代目として社長に就任

## 2018年までに「ごみ 25% 減量」を達成 さらなる SDGs の実現を目指す

——西宮市では2008年度に「チャレンジにしのみや25」を掲げ、10年後の2018年度までに「ごみの25%減量」という目標を達成しました。現在はSDGsが世の中に浸透し、市民の意識もさらに高くなっています。お二人は、西宮市のごみの現状やリサイクルの動きについて、どうとらえていますか。

西 岡 西宮市では、ペットボトルやその他プラスチック製容器包装の分別収集や、2022年に指定ごみ袋制度が導入されるなど、ごみやリサイクルを取り巻く情勢が急激に変化しています。リサイクルやSDGsについて世間の意識も高まる中で、私たちは企業としてその変化に対応できる機動力、組織力が求められていると思います。西宮市の環境を支える企業としては、今後の変化に柔軟に対応できる組織を作っておくことが重要だと考えています。

北 本 2022年4月に生活系指定ごみ袋制度がスタートし、2021年度と2022年度を比較した西宮市のデータでは、一般市民の可燃ごみが8,000トン、事業系ごみが4,100トン削減できたと公表されています。今まで可燃ごみとして混ぜていたものを分別したためプラスチックごみは増えていますが、指定袋の導入によってようやく一般市民にも事業者にも分別の意識付けができたように思います。これからどう動いていくのか。また、そのときにいかに迅速に対応できるか。私たちにとって今はその準備期間といえます。今後はリサイクルや分別について業界として社会に積極的に啓発していくことも必要でしょう。



## 若者世代へのPRや高齢者対応も 市民と行政をつなぐパイプ役を担う

——にしのみや環境サポート協同組合が市民と行政をつなぐパイプ役になる必要がありますね。

西岡 私たちが率先して「西宮モデル」を作っていかなければならないと思います。指定袋移行の際、西宮市直営のごみ収集車は啓発のポスターを貼って街中を走っていました。こうした啓発の仕方であれば、私たちのトラックにも貼って協力できると市に先日提案させてもらいました。広報や啓発、PRのお手伝いも組合が担うべきところだと思います。

——啓蒙やPR活動については、中澤総業さんではフェイスブックとインスタグラムなどSNSを活用していますね。

北本 私が代表取締役になったタイミングでフェイスブックとインスタグラムを始めました。最近の若者世代は何でもSNSで調べるので広報活動にうまく活用していきたい。まだまだ十分ではありませんが、ごみの分別や指定袋についてもお客様や市民の方に発信して、有効活用していきたいと考えています。



——「ゴミマンサービスのホームページでは、「ゴミコンシェルジュ」という印象的なキーワードを発信しています。

西岡 高齢化社会が進む中、ごみを出すこと自体が難しいという声も聞きます。そのようなケースをどこまでサポートできるか。「地域に貢献する執事の役割」という思いを込めて「ゴミコンシェルジュ」という言葉を先代が考案しました。ごみ回収はされて当たり前という位置づけの中で、お客様満足度、市民満足度を100%にするために日々努力しているところです。



北本 「ゴミコンシェルジュ」という言葉はいいですね。私たちの思いを表しています。組合6社もこの言葉の通り、市民サービスとしての質が問われる時代です。先見性のある言葉で、今後ますます重要になってくるキーワードだと思います。

西岡 SDGsへの意識が高まる中で分別やリサイクルへの取り組みは今後も進んでいきます。一方で地域社会の高齢化や地域コミュニティのつながりの希薄化という目の前の課題もある。変化の激しい時代、ますます行政、市民、民間業者という3者の連携が重要になってきます。私たちは、いろんな工夫をして市や地域の間にとって橋渡しをする役割を担っていかなければならないと思います。

## 分別回収とリサイクル促進 ごみのごみではなくなる時代に

——組合で取り組んでいる「徹底した分別回収」「リサイクル促進」については、現状をどうお考えですか。事業系の古紙の分別も2025年1月からスタートします。

西岡 組合ができて50年。大量生産・大量廃棄の時代が終わり、現在はリデュース・リユース・リサイクルの時代です。事業系の古紙の分別が始まると、十分なバックヤードを持つ事業者ばかりではないので短スパンの回収が必要になってくるでしょう。そこは回収業者としても組合としても課題になってくると思います。いかに効率よく回収していくか。組合6社が力を合わせることが大事になってくるので、全体のことを考えて協力していく体制を整えたいですね。



北本 2025年のスタートに備えて、1年前から古紙回収の準備をしてほしいと市から指示を受けています。そうやってリサイクルや分別が進んでいくと、現在のほぼすべてのごみが分別されるようになり、数年後には私たちがごみとして回収するのは生ごみだけということになるのではないのでしょうか。従来の「ごみ」という意識も変わっていくと思います。今の「ごみ」はすべて「リサイクル物」という認識になり、私たちの仕事も、もはやごみの回収ではなくなるかもしれません。

西岡 ごみからリサイクルへの大転換ですね。

北本 古紙分別のスタートが大きな転換点になると思いますね。

## 循環型社会をめざす西宮で 組合が担うべき役割とは

——西宮市は「循環型社会をめざす」と掲げて施策を展開しています。環境をめぐる意識が変化を続ける中、組合はどうあるべきだと考えますか。

北本 私たちの業界は、時代の変化や行政の施策、法律などに左右されますが、現在はこれまでになく変化が激しい時代です。重複になりますが、やはり古紙分別が大きな分岐点になると感じます。ここで私たちが西宮市の削減計画にどこまで協力できるか。そのために、市民への啓発も積極的に取り組んでいけばいいですね。地域の未来を考えると失敗はできません。

——SDGsについては、学校での教育も始まりました。Z世代をはじめ、若い世代は環境への意識が高いようです。

北本 私の甥や姪を見ていると、若い世代の環境に対する意識の高さを感じます。若い人たちは分別やリサイクルについて、私たち世代以上にきちんと考えている。訴えかけるにしても、若い世代へのアプローチが効果的かもしれません。となると、プロモーションの仕方も変わります。現在、組合として学校への出前授業に取り組んでいますが、今後はSNSの活用なども視野に入れていきたいと思います。

西岡 プロモーションについては、行政とのタイアップなどもどんどんやっていきたいですね。民だけでやるよりも、官民が一緒になってやる方が効果は上がるでしょう。循環型社会を確立する一端を組合がしっかりと担いたいと思います。



## 先人の築いた土台の上に 組合ならではの強みを発揮

——お二人は今後の業界を担う存在です。環境問題が世界的な課題になっている現在、これまでのやり方から何を変革していきたいと考えていますか。

西 岡 これまでは各社がそれぞれのやり方で事業を進めてきましたが、今後は社会的な変化に業界として対応していくことが求められます。先人たちが築いてくれた土台の上で、社会変化を受け入れつつ、やるべきことを着実にやっていくことが大切だと思っています。

北 本 時代が変わっても受け継いできたものの根幹は変わりません。各社ともそうですし、組合も同じだと思います。

西 岡 廃棄物処理はどんな時代にあっても必要不可欠な仕事です。コロナ禍のときには私たちの仕事が「エッセンシャルワーカー」として注目され、市民の方がごみ袋にお礼の手紙をたくさん貼ってくれました。感染者を増やさず、コロナ禍を乗り切れたのは市民の皆さんの応援の声が大きかったからこそ。私たちの存在意義を再確認する機会になりました。環境への意識が高まる社会において、私たちの仕事はより重要性を増していきます。そう考えると身が引き締まる思いです。

北 本 メッセージは励みになりましたね。今も事務所の壁に飾っています。また、コロナ禍においても「事業を止めない」ということは私たちにとって大きなミッションでした。万が一に備えて組合で協力し合えるよう、事前にシミュレーションできたのは良かったと思います。結果的にはどこも営業停止になることはありませんでしたが、今後のことを考えてもしっかりと体制ができたのは大きな収穫。コロナ禍を経て、今後何が起きても私たちは乗り切れる自信がある。協同組合ならではの強みです。



## 災害時への備えを万全に 西宮独自の循環モデルを描く

——組合として、この先の50年でどんなことをやっていきたいですか。

西 岡 災害に備えて、準備をさらに詰めていきたいですね。西宮市とは災害協定を結んでおり、私たちの車両も災害ごみの運搬や撤去に使うことが決まっていますが、もう少し具体的な動きや連携の仕方を検討して準備したいところです。想定外の災害がいつ起きるとも限りません。西宮に何かあれば、私たちがすぐに動いて市民の皆さんが生活に困らないようにする準備をしておきたいです。

北 本 あらゆる想定をしながら、協力して準備しておく必要がありますね。さらに先の展望を想像すると、現在、産業廃棄物の処理や食品リサイクルは他市で行っていますが、これを市内でできればと個人的には思っています。市内で処理できれば正確な排出量も公表できます。具体的な数字の発信ができれば、リサイクルもごみ処理も

もっと分かりやすくなるはずですし、市民のモチベーションも上がるのではないのでしょうか。

西 岡 実現できるかどうかは別として未来の夢を語れば、市内で資源循環させることができる処理施設を組合で作れるといいですね。もちろん簡単なことではありませんが、実現できればリサイクルや循環、環境というキーワードが西宮市の象徴になるかもしれません。

北 本 地域で出たごみは地域で循環させるという、西宮独自のモデルを確立できると思います。

西 岡 面白いと思います。この先、50年、100年と、組合で力を合わせて、いろんなチャレンジをしていきたいですね。

北 本 私たちならできると思います。協力してやっていきましょう。

——本日はありがとうございました。



# 祝50周年 にしのみや環境サポート協同組合



百太夫祭 (西宮神社)



コバノミツバツツジ (廣田神社)



曲水の宴 (北山緑化植物園)



夏越し (越木岩神社)



御旅所 (西宮神社)



津野山神楽奉納 (西宮神社)



浜遊び (香櫨園浜)



大イチョウ (神戸女学院)

撮影：竹下 宗一 (元西宮市環境局長・西宮写真美術協会会長)

# にしのみや環境サポート協同組合



株式会社大栄衛生

株式会社大協



株式会社ヤマサ環境エンジニアリング



(有) 兵 庫 陸 運





## 株式会社大栄衛生

自らの事業を通して、  
循環型による持続可能な  
社会づくりに貢献



代表取締役社長

赤澤 健一

にしのみや環境サポート協同組合設立50周年、おめでとうございます。

にしのみや環境サポート協同組合とともに歩ませていただきましたのも、関係者の皆様の温かいご支援の賜物と深く感謝いたします。

さて、環境問題が地球規模での喫緊の課題として議論され、SDGsが2015年9月の国連サミットで採択されたことで、時代はこれまでになく環境問題と向き合っています。政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすることをめざす「カーボンニュートラル」を宣言、資源を循環利用し続けながら新たな付加価値を生み出し続けようとする「循環経済（サーキュラーエコノミー）」への移行が推進されています。

弊社は、このような時代において、自らの事業が「循環型による持続可能な社会」の形成に大きな責任があることを自覚し環境サービスを提供するとともに、市民のみなさまの「発生抑制」「再使用」「再資源化」「適正処理」といった環境活動をサポートしてまいります。

また、西宮という地域の事業者として、行政、市民、事業者、NPOなど様々な地域の関係者との連携と相互の学び合いを通じ、地域社会のみならず広く社会の信頼を得る企業市民になるべく取り組んでまいりたいと存じます。



## 取 り 組 み

### ①大栄衛生と関西学院大学が協働して不要となった飛沫防止パネルのリサイクルプロジェクトを実施

2023年5月に新型コロナウイルス感染症対策が緩和されたことを受けて、大学内で不要となった飛沫防止パネルのリサイクルプロジェクトをSDGsに関心を持つ学生とともに実施しました。

作業前には環境授業を行い、プロジェクトへの理解を深めました。

プロジェクト実施により集まったパネルの総重量は2.1tで、焼却処分に比べて約5.9tのCO<sub>2</sub>削減効果があり、これは1家庭における年間CO<sub>2</sub>排出量平均約5t<sup>(※)</sup>を超えるものです。

※出典：国立環境研究所 温室効果ガスインベントリオフィス



### ②BCP(事業継続計画)の策定と実行

近年の自然災害や新型コロナウイルス感染拡大など、サービスの遂行を妨げる事案に対してBCPの策定と実行に注力し、「いかなる時も市民サービスを止めない体制」を整えています。

非常時のマニュアルは定期的にグループ全社で見直しを行い、従業員とその家族の安全を確保し、地域社会の早期復旧と顧客の事業活動に貢献する体制づくりに努めています。

### ③小学校への出前授業を実施

地域コミュニティと連携して地元の小学校へ赴き、子どもたちへ出前授業を実施しています。

街中を走るパッカー車を間近で見てもらい、家庭ごみの分別の大切さやごみを減らすために出来ること、リサイクルや分別に関連するクイズなどを交えて小学生にも分かりやすい授業を心掛けています。



## 会 社 概 要

|       |                        |
|-------|------------------------|
| 社 名   | 株式会社大栄衛生               |
| 代 表 者 | 代表取締役社長 赤澤 健一          |
| 創 業   | 1953年                  |
| 資 本 金 | 1,000万円                |
| 所 在 地 | 兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号      |
| 事業内容  | 一般廃棄物収集運搬<br>産業廃棄物収集運搬 |

## 会 社 沿 革

|        |                                                                               |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 1953 年 | 故 赤澤登が大栄衛生を創業<br>西宮市内において、廃棄物回収業をスタート                                         |
| 1968 年 | 有限会社大栄衛生を設立                                                                   |
| 2006 年 | 計量器付き収集車両の導入                                                                  |
| 2008 年 | 環境報告書(現サステナビリティレポート)<br>発行スタート<br>甲山農地プロジェクト(現こども農業塾)を<br>開始<br>JICA研修の受入れを開始 |
| 2017 年 | 献血サポーター参加                                                                     |



## 株式会社大協

# サステナブル社会の実現と 市民生活に貢献します



代表取締役社長

平井 里美

にしのみや環境サポート協同組合が設立50周年の節目を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

時代の移り変わりとともに変化していく環境問題に対して、当社は地域の生活基盤として従事させていただき、社会インフラの役割を担ってまいりました。

昨今では「なくてはならない事業」「エッセンシャルワーカー」として私たちの事業にご注目をいただく機会もございます。

いかなる時もサービスを止めることなく、市民の皆様や事業者の方々に安心して当たり前の日常生活を過ごしていただくことが私たちの使命だと思っております。

また、国をはじめ西宮市が推進する資源循環型社会、脱炭素社会に向けて、地域の皆様とともに、廃棄物を資源として適正に利用するためのごみの分別回収や様々な取り組みをおこなっております。

これからは中長期的な視点で、地球環境問題や社会課題に対して、当社として、組合として、できることを常に考え、柔軟に対応できる体制を整え、サステナブル社会の実現に向けて邁進してまいりたいと思います。



## 取 り 組 み

### ① ISO14001 (環境マネジメントプログラム) 認証取得

2008年よりISO14001を取得しております。一般廃棄物、産業廃棄物、特別管理産業廃棄物の収集運搬が環境に与える影響を認識し、これまで以上に地域社会の環境保全並びに循環型社会の構築に貢献していきます。

### ② TCFD提言の枠組みに沿った情報開示

気候変動をはじめとした地球規模の環境問題への配慮、人権の尊重、従業員を含む全てのステークホルダーへの公正・適正な事業活動など、社会や企業のサステナビリティを巡る課題解決を事業機会と捉え、2023年11月に「サステナビリティ委員会」を設置し、取り組みを推進してきました。

TCFD提言に基づいた気候変動に関する重要情報の開示もおこなっております。

### ③ こども農業塾の開催

2008年より毎年実施しているこども農業塾は地元の小学生を対象にした農業体験で、年間4～5回からなるプログラムで構成されております。腐葉土を作る土づくりから野菜やお米の苗付けを行い、稲刈や野菜の収穫後にカレーを作って食べるところまでを体験し自然循環を肌で感じてもらえる取組を実施しています。



## 会 社 概 要

|       |                                                      |
|-------|------------------------------------------------------|
| 社 名   | 株式会社大協                                               |
| 代 表 者 | 代表取締役社長 平井 里美                                        |
| 設 立   | 1976年                                                |
| 資 本 金 | 1,000万円                                              |
| 所 在 地 | 兵庫県伊丹市北河原5丁目3番31号                                    |
| 事業内容  | 一般廃棄物収集運搬<br>産業廃棄物収集運搬<br>特別管理産業廃棄物収集運搬<br>人材派遣、人材紹介 |

## 会 社 沿 革

|        |                                                                                                 |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1976 年 | 有限会社大協工業所を設立<br>(現:株式会社大協)                                                                      |
| 2006 年 | 株式会社に改組および大協に商号変更<br>計量器付き収集車両の導入                                                               |
| 2008 年 | ISO14001 (環境マネジメントシステム)<br>認証取得<br>環境報告書(現サステナビリティレポート)<br>発行スタート<br>甲山農地プロジェクト(現こども農業塾)を<br>開始 |
| 2009 年 | 伊丹市内の小学校、幼稚園、支援学校へ<br>サツマイモ苗の寄贈を開始                                                              |
| 2017 年 | 環境業界に特化したドライバーの人材サービス<br>「G career(ジーキャリア)」始動                                                   |



## 株式会社ヤマサ環境エンジニアリング

### 考える人材の育成



代表取締役

阪本 貴良

にしのみや環境サポート協同組合設立50周年、心よりお喜び申し上げます。

当社も創業から61年を迎え、気持ちを新たにしているところです。不確実性、不透明性の高い時代において自らが考えて行動する人材の育成こそが会社の維持、発展に繋がると確信しております。

当社の行動指針にあたる「社会の一員としての役割」、「地域への貢献」を自ら考え、実践し成功体験を積んでもらいたいのです。

DX化は待った無しです。積極的に取り入れ有効活用で効率化を図り生産性向上に繋がります。一方で地域との交流も大切なミッションと考えます。コロナ以後、コミュニケーションが不足し相互理解や相手を思いやるのが難しくなっていると感じております。そこで当社では先ず、朝の挨拶から始まり、市民への挨拶、お客様への声掛けが教育の第一歩と考え、運転と交通マナーも厳しく指導しています。

「行動指針」を毎日の業務で実践する事でコミュニティを形成し自らが変わる事を実感してもらい人間味の有る人材を育成する企業風土を作ります。

冒頭申し上げましたように、不確実・不透明な時代です。エッセンシャルワーカーとして社員一人一人が情報収集のアンテナを高く上げ、先の見え難い社会を生き抜くため、一丸となって未来を切り開く意識を共有し、挑戦者として進んでまいります。

これからも「あたりまえの事を当たり前」に合言葉に邁進し、皆様から必要とされる企業になることをお誓い申し上げ、挨拶とさせていただきます。



## 取 り 組 み

### 清掃ボランティア活動

私どもが甲子園浜ボランティア清掃に参加するきっかけは、伊藤ハム様が取り組まれている「クリーンアップIN 甲子園浜」が始まりで、その活動に参加以降、NPO 法人海浜の自然環境を守る会様が実施される甲子園浜清掃活動と一緒に参加させていただくようになり、現在は年間に約4回の清掃に参加しています。



### エコアクション21・健康経営優良法人2024

#### エコアクション21

2016年に認証取得。環境マネジメントシステムを運用し全社を挙げて環境負担の低減に取り組んでおります。

#### 健康経営優良法人2024

2024年に認定。社員の健康の増進・労働環境の向上に取り組む、組織の活性化を図っています。



## 会 社 概 要

社 名 株式会社ヤマサ環境エンジニアリング  
代 表 者 代表取締役 阪本 貴良  
設 立 1972年9月16日  
資 本 金 1,000万円  
本 社 兵庫県西宮市西宮浜3丁目2番2号  
営 業 所 兵庫県伊丹市昆陽8丁目28番地  
業務内容 ・一般廃棄物収集運搬  
・産業廃棄物収集運搬  
・特別産業廃棄物収集運搬  
・リサイクル事業・金属くず商・古物商  
・道路・公園・河川  
・側溝の管理、清掃ほか

## 会 社 沿 革

1963 年 6 月 ヤマサ清掃社として創業  
1964 年 2 月 西宮市より一般廃棄物処理業の許可を取得  
1972 年 9 月 株式会社ヤマサ環境エンジニアリングに法人改組  
1994 年 9 月 伊丹市より一般廃棄物処理業の許可を取得  
2006 年12 月 事業拡大に伴い、伊丹営業所開設  
2016 年11 月 エコアクション21認証取得  
2020 年 9 月 兵庫県より特別管理産業廃棄物収集運搬業の許可を取得  
2024 年 3 月 健康経営優良法人2024に認定



# 中澤総業株式会社

Always be aware of  
environmental issues



代表取締役

北 本 至

にしのみや環境サポート協同組合設立50周年おめでとうございます。  
50年前に組合設立に御尽力された方々、今までご協力して頂いた皆様に感謝  
いたします。

現代はさまざまな環境問題が存在しています。私たちが毎日排出しているごみ  
も環境問題の1つで、ごみを適切に処理することが環境を守るために重要となり  
ます。行政も指定ごみ袋制度導入、古紙分別といった、分別によるごみの削減を推進され環境問題も浸透  
してきていると思います。

ごみの削減で私たちが出来ることとして3Rの徹底が重要とされています。Reduce(なるべくごみを出さない)、Reuse(物を捨てずに再利用)、Recycle(ごみを資源として有効活用)の3つです。今後、私たちはペットボトルや古紙などをごみではなく資源として正しく分別回収し行政と一体となり西宮市のごみの削減を進めていきたいと思っています。

2019年コロナ禍でも、各会社が回収しているルートの地図を用意し不測の事態が起これば、いつでも他の会社が助け合える良い関係が築けていると思います。今後も良好な関係を築きつつ環境問題にも微力ながら貢献できるように事業を進めてまいります。

## 事業紹介

NAKAZAWAグループでは主に、  
西宮市／芦屋市／宝塚市の一般家庭や  
事業所から出される廃棄物の収集運搬  
を行っております。

収集物の内容としましては、もやす  
ごみなどの一般廃棄物から粗大ごみと  
いった大型のもの、事業所から出される  
産業廃棄物や病院から出される医療  
廃棄物(特別管理産廃)などで適正処理  
の推進と共に様々なものを幅広く収集  
させていただいております。



感染性廃棄物収集運搬



可燃物収集運搬 作業風景



NAKAZAWAグループではSDGsを推進しており、その一環として売れ残った食品を廃棄ではなくリサイクルのために食品リサイクル物の運搬も行っております。

また、環境面だけではなく地域住民の皆様への安全面に



も配慮した活動も行っており、緊急事態の遭遇に備えパッカー車へのAEDの搭載や、安全運転への取り組みの一環としてのチャレンジ100の実施などをしております。



食品リサイクル物収集運搬作業風景

## 会社概要

社 名 中澤総業株式会社  
 代 表 者 代表取締役 北本 至  
 設 立 1965年6月9日  
 資 本 金 1,000万円  
 所 在 地 兵庫県西宮市西宮浜3丁目28番地  
 業務内容 西宮市・芦屋市・宝塚市 一般廃棄物の収集運搬  
 兵庫県・大阪府 産業廃棄物の収集運搬  
 兵庫県・大阪府 特別管理産業廃棄物の収集運搬  
 各公共及び一般施設の清掃(ビルメンテナンス)  
 清掃管理・廃棄物管理



## 会社沿革

1964年 6月 西宮市一般廃棄物処理業の許可を取得  
 1965年 5月 宝塚市一般廃棄物処理業の許可を取得  
 6月 有限会社中澤塵埃清掃設立  
 11月 西宮市清掃事業協同組合を発起及び加入  
 1977年 4月 中澤総業株式会社に組織変更  
 1981年 11月 芦屋市一般廃棄物処理業の許可を取得  
 1983年 8月 兵庫県産業廃棄物収集運搬業の許可を取得  
 1993年 8月 兵庫県西宮市西宮浜3丁目28番地へ本社移転  
 10月 兵庫県特別管理産業廃棄物収集運搬業の許可を取得  
 1998年 9月 古物商許可取得  
 1999年 4月 金属商許可取得  
 2002年 2月 有限会社ナカザワ設立  
 7月 宝塚市一般廃棄物収集運搬業の許可を取得(中澤総業株式会社からの業務移管により宝塚市内各商店のゴミ収集運搬開始)  
 2004年 11月 有限会社NAKAZAWA設立  
 2010年 4月 芦屋市一般廃棄物収集運搬業の許可を取得(中澤総業株式会社からの業務移管により芦屋市内各商店のゴミ収集運搬開始)  
 2012年 6月 中澤総業株式会社 新社屋建設  
 2019年 6月 SDGs推進宣言を発表  
 2022年 2月 有限会社ナカザワ新社屋建設(宝塚市小浜3丁目18番1号へ移転)  
 2023年12月 大阪府産業廃棄物収集運搬業の許可を取得  
 大阪府特別管理産業廃棄物収集運搬業の許可を取得



## 有限会社兵庫陸運

「地球に、そして人にやさしく」  
を目指して



代表取締役

寺崎 大三

にしのみや環境サポート協同組合設立50周年を迎え、お慶び申し上げます。半世紀に渡り環境事業に弊社も携わることが出来、西宮市をはじめ組合加盟の各社が切磋琢磨し、環境事業に正面から向き合ってきた事の成果だと思っております。

当初は、現在のように作業環境も整っていたとは言えない中、先人の日夜努力のおかげで少なからず皆様の信頼を得てまいりました。阪神大震災を乗り越え、この事業が市民にとってかけがえのないライフラインである事を再確認することが出来ました。この事業に携わる総ての人がこの仕事に誇りをもって人々に貢献しているという事を実感出来ているのではないのでしょうか。

ごみ減量という課題をこれからも乗り越えていきます。廃棄物の再資源化が、当社の重要な役目だと思い貢献できるよう努めてまいります。ここに、これからの皆様の発展を祈念いたします。誠に有難うございました。

### 取 り 組 み



一般廃棄物収集運搬業



金属くず商・古物商



計量証明事業



## 会 社 概 要

|       |                |       |                                              |
|-------|----------------|-------|----------------------------------------------|
| 会 社 名 | 有限会社兵庫陸運       | 事業内容  | 金属くず商、古物商、一般廃棄物収集運搬業、運輸業、計量証明事業、エアコンクリーニング事業 |
| 代 表 者 | 代表取締役 寺崎 大三    | 従業員数  | 29名                                          |
| 設 立   | 1965年 4月       | 主要取引先 | 西宮市、各種事業者、スクラップ排出事業者                         |
| 資 本 金 | 300万円          | 取引銀行  | 尼崎信用金庫、関西みらい銀行                               |
| 所 在 地 | 兵庫県西宮市西宮浜3丁目27 |       |                                              |
| 電 話   | 0798-35-7222   |       |                                              |
| F A X | 0798-35-8995   |       |                                              |

## 会 社 沿 革

|           |                                                                                   |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 1965年4月1日 | 寺崎運輸有限会社代表取締役 寺崎吉太郎設立・西宮市の一般廃棄物許可業者となる(収集運搬)                                      |
| 1965年     | 有限会社兵庫陸運設立(一般区域貨物)・自動車運送業認可(大陸第9305号)                                             |
| 1971年     | 神戸市に本店を置いていた有限会社兵庫陸運を西宮市に移転、寺崎運輸有限会社と合併し社名を有限会社兵庫陸運代表取締役寺崎祐一とし、西宮市の一般廃棄物許可業務も継承した |
| 1976年     | 兵庫県産業廃棄物収集運搬業の許可業者になる(第02801003606号)                                              |
| 1977年     | 尼崎市産業廃棄物収集運搬業の許可業者になる(第07100003606号)                                              |
| 1993年     | 本社及び車庫を西宮市中前田町7番40号より西宮市西宮浜3丁目27番へ移転                                              |
| 1999年     | 金属くず商の許可業者となる(兵庫県公安委員会許可第1319900009)                                              |
| 2003年     | 西宮市産業廃棄物収集運搬業の許可業者になる(第9903003606号)                                               |
| 2004年     | 計量証明事業登録(兵庫県)                                                                     |
| 2007年     | 代表取締役 寺崎祐一に代わり取締役 寺崎大三が代表取締役に就任                                                   |
| 2014年     | 古物商の許可業者となる(兵庫県公安委員会許可第631311400021号)                                             |



## 株式会社ダストマンサービス

### 「身近なところから」 循環型社会の実現に貢献



代表取締役社長

西岡 巧 貴

にしのみや環境サポート協同組合設立50周年おめでとうございます。

設立から今日まで私達の活動基盤の構築に尽力して頂いたステークホルダーの皆様や、西宮市の環境美化活動におけるパートナーである組合加盟各社様に深く感謝致します。

さて、近年、社会構造や人々のライフスタイルが著しく変化・多様化することによって、「環境」に関する課題やソリューションも複雑化の一途を辿っています。そんな中、脱炭素社会の実現や循環型社会への転換に向け、世界は大きく舵を切りました。マクロの変化がミクロに変化を及ぼす事は必然であります。これを機に、弊社を含め多くの組織が社会課題の解決に繋がるESG施策について、これまで以上に踏み込んで取り組んでいく事を意識したかと思います。

しかし、西宮市を例外とせず、カオスと表現できる程に混沌化した現代社会においては、個人の力があまりに小さい事と同様に、社会課題に対する個社の影響力もまた極小です。故に、複雑性の高い現代社会においては、にしのみや環境サポート協同組合のような機能体が不可欠であると考えております。また、課題に対して生産性の高い機能体であるためには、外的環境がカオスである事に対して機能体内部は秩序を基調として、且つ、個社最適ではなく全体最適を前提とする必要があると考えております。

西宮市は自然や生活といった「環境」という広義の概念上、非常に恵まれております。それは組合運営に関しても例外ではありません。学園都市である事を活かした産学官連携の強化など、他都市を牽引する環境先端都市としての西宮を目指して、官民の枠を超えて組合が発展してゆけるよう、まずは「身近なところから」弊社も微力ながら努力を続けてまいります。



## 事業紹介

### ① 一般廃棄物収集運搬

西宮市のごみを収集・運搬し  
町を清潔に保っています。

西宮市全域のご家庭で発生する一般廃棄物の  
収集運搬を行っています。

私たちは、環境への負荷をできるだけ低減し、  
資源の有効活用や再利用を図り、生産・流通・消費・  
再利用・廃棄物それぞれの過程において、役割と  
責任を明確にしながら、豊かな自然環境や快適な  
生活空間を維持する目標を達成するため、循環型社会  
へ向けた取り組みを積極的に推進していきます。

### ② 産業廃棄物収集運搬

近畿エリア全域の産業廃棄物収集を  
承っております。

近畿エリアのオフィス・飲食店・事業所などで発  
生する産業廃棄物をお客様のニーズに合った方法  
で回収、適切かつ安全に処理場やリサイクル施設に  
運搬します。

その中で、当社の積み替え保管施設などを活用し、  
食品リサイクル率の向上・コストダウンを実現する  
ご提案も可能ですので、ぜひお気軽にご相談・お見  
積りください。

### ③ 環境商品の販売・レンタル

身近なところから環境を考え最適な商品を  
取り揃えています。

清掃関連商品を中心として販売及びレンタルを  
行っております。商品ラインナップはお客様のご要  
望により順次取り揃えてまいります。

## 会社概要

|       |                            |
|-------|----------------------------|
| 社 名   | 株式会社ダストマンサービス              |
| 代 表 者 | 西岡 巧貴                      |
| 設 立   | 1997年5月                    |
| 資 本 金 | 1000万円                     |
| 所 在 地 | 兵庫県西宮市西宮浜1丁目14番地           |
| 事業内容  | 一般廃棄物・産業廃棄物・粗大ごみの収集・<br>運搬 |

## 会社沿革

|           |                                                                                              |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1997年 5月  | 有限会社ダストマンサービス設立                                                                              |
| 2006年 10月 | 兵庫県西宮市「産業廃棄物収集運搬業<br>許可証」を取得                                                                 |
| 2007年 7月  | 株式会社に組織変更                                                                                    |
| 2008年 7月  | 現在地に本社移転                                                                                     |
| 10月       | 兵庫県尼崎市「産業廃棄物収集運搬業<br>許可証」を取得<br>「古物商許可証」を取得<br>「金属くず商許可証」を取得<br>兵庫県神戸市「産業廃棄物収集運搬業<br>許可証」を取得 |
| 11月       | 積み替え補完取得（産業廃棄物・一般<br>廃棄物）                                                                    |
| 2009年 9月  | 三重県「産業廃棄物収集運搬業許可証」<br>を取得                                                                    |
| 11月       | 兵庫県姫路市「産業廃棄物収集運搬業<br>許可証」を取得<br>大阪府大阪市「産業廃棄物収集運搬業<br>許可証」を取得<br>大阪府「産業廃棄物収集運搬業許可証」<br>を取得    |

### ● 一般廃棄物の積み替え・保管とは

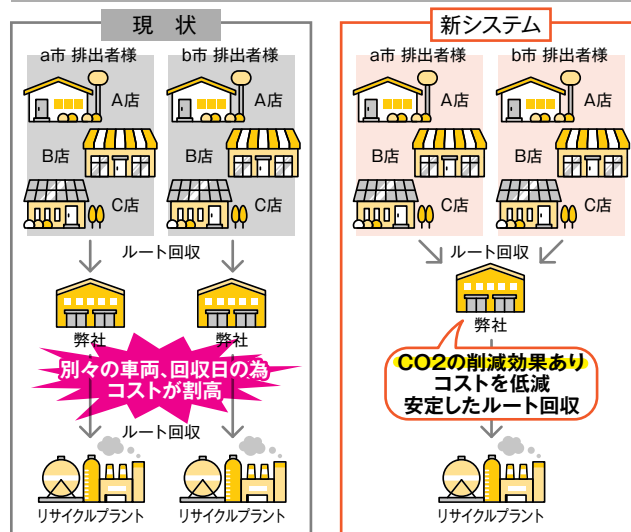
環境省から許可を取得する必要がある、収集運搬業者  
が廃棄物を運搬する過程において、一旦廃棄物を降ろして  
積み替えや保管をすること。降ろした廃棄物を別の車両  
に積み替えたり、また一定量の廃棄物を集めてから運搬  
したりすることで、効率の良い運搬が可能となります。

ダストマンサービスは

**全国業界初で“一般廃棄物の積み替え・保管”の  
許可を取得いたしました。**

従来、一般廃棄物はその日に処分しなければならない  
という概念を一新し、ダストマンサービスは冷蔵庫内  
に最大 1 週間のストックが可能になりました。また、産業  
廃棄物として処理ではなく一般廃棄物の範疇での処理が可  
能です。それに伴い「食品リサイクルがより身近に、より  
現実的に」行えます。

### 処理フローの比較



# 西宮清掃事業協同組合設立趣意書

## I 設立目的

最近における中小企業の経営は、人手不足を背景として賃金や諸経費の高騰、さらには、とみにやかましさを増して来た公害防除、廃棄物処理の問題等、社会的、経済的に幾多の問題が山積して居ります。

われわれ廃棄物処理業者はまさにこれらの諸問題の渦中にあり、そのゆくすえは決して楽観を許されず暗中模索を続けているのがその実情であります。

この様な現状に対処するため、中小企業等協同組合法による協同組合を設立し、従来個々で西宮市より受注していた一般廃棄物処理並に河川の清掃事業を組合にて一括受注してその合理化を図るとともに、共同処理場並に共同処理施設の取得を目指し、積極的に活動を行ない併せて金融事業等の諸事情をも活発に行ないもつてわれわれ業者の共存共栄を図ろうとするものである。

## II 組織および事業の概要

- (1) 名 称 西宮清掃事業協同組合  
(にしのみや環境サポート協同組合 平成28年11月1日変更)
- (2) 地 区 兵庫県西宮市
- (3) 事務所 兵庫県西宮市上田西町4番22号  
(兵庫県西宮市櫛塚町3番5号 昭和51年11月25日移転)
- (4) 組合員資格  
次の要件を備える小規模の事業者であること  
(イ) 一般廃棄物および河川の清掃作業の許可を有するもの  
(一般廃棄物の収集、運搬について西宮市長の許可を受けている者 昭和51年12月15日変更)  
(ロ) 組合の地区内に事業場(店舗)を有すること
- (5) 出資一口の金額 10,000円也
- (6) 出資払込の方法 全額一時払い込み
- (7) 事業計画の概要
  - ① 組合員のためにする一般廃棄物処理の一括共同受注  
(組合員のためにする一般廃棄物収集運搬の一括共同受注 平成30年7月11日変更)
  - ② 組合員のためにする一般廃棄物の処分地取得および処理施設の建設
  - ③ 組合員のためにする処分地の処理施設の管理運営
  - ④ 組合員の事業に関する協定
  - ⑤ 組合員に対する事業資金の貸付け(手形の割引きを含む。)および組合員のためにするその借入れ
  - ⑥ 商工組合中央金庫、株式会社太陽神戸銀行に対する組合員の債務の保証または、これらの金融機関の委任をうけてするその債権の取立て  
(商工組合中央金庫、株式会社三井住友銀行、尼崎信用金庫に対する組合員の債務の保証又は、これらの金融機関の委託を受けてするその債権の取立て 平成30年7月11日変更)
  - ⑦ 組合員の経済的地位の改善のためにする団体協約の締結

- ⑧ 組合員の事業に関する経営および技術の改善向上または、組合事業に関する知識の普及をはかるための教育および情報の提供
- ⑨ 組合員の福利厚生に関する事業
- ⑩ 前各号の事業に附帯する事業

(8) 賦課金の賦課徴収方法

平等割1ヵ月30,000円とし、月初めに徴収する。

(9) 役員の定数および任期

| 区 分 | 定 数                                  | 任 期                                                                                                                                      |
|-----|--------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 理 事 | 4 名<br>(3名<br>昭和51年<br>12月15日<br>変更) | 2年又は就任後第2回目の通常総会の終結時までのいずれか短い期間とする。<br>(2年又は任期中の第2回目の通常総会の終結時までのいずれか短い期間。ただし、就任後第2回目の通常総会が2年を過ぎて開催される場合にはその総会の終結時まで任期を伸長する。平成30年7月11日変更) |
| 監 事 | 1 名                                  | 2年又は就任後第2回目の通常総会の終結時までのいずれか短い期間とする。<br>(2年又は任期中の第2回目の通常総会の終結時までのいずれか短い期間。ただし、就任後第2回目の通常総会が2年を過ぎて開催される場合にはその総会の終結時まで任期を伸長する。平成30年7月11日変更) |

(10) 創立費およびその償却方法

金20万円以内とし、2年間償却とする。

(11) 発起人の住所、名称および氏名

発起人代表 兵庫県西宮市中殿町6番28号  
ヤマサ清掃社  
代 表 者 阪本 紘

発 起 人 兵庫県西宮市小曾根町1丁目4番20号  
有限会社 大栄衛生  
代表取締役 赤澤 登

発 起 人 兵庫県西宮市中屋町11番12号  
有限会社 中澤塵埃清掃  
代表取締役 中澤玉数

発 起 人 兵庫県西宮市西福町17番24号  
有限会社 兵庫陸運  
代表取締役 寺崎祐一

発 起 人 兵庫県西宮市上甲子園5丁目9番2号  
大協工業所  
代 表 者 松宮孝昌

## 編集後記

---

にしのみや環境サポート協同組合は今年で50周年を迎えました。この節目に組合が50年間歩んできた軌跡を記念誌として編纂しました。本誌の編纂にあたりましては、内容の充実と正確を期するよう努力いたしましたが、資料と記述の不備、不十分である箇所などもあるかと存じます。何卒ご寛容いただき、次回の編纂に向けてご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

サステナブル社会において、環境や社会に配慮した持続可能な未来をめざす取り組みを行うことが求められています。50周年記念誌では、若手トップによる対談「にしのみや環境サポート協同組合・若手トップが描く、西宮市の環境と未来」を特集しております。また、2020年からのコロナ禍におけるにしのみや環境サポート協同組合の奮闘の様子も記録いたしました。

結びに、本誌の作成にご協力いただきました関係者の皆様には、心より感謝と御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

---

## にしのみや環境サポート協同組合50周年記念誌

---

令和6年11月 印刷発行

編集・発行：にしのみや環境サポート協同組合

記念誌編集委員：阪本貴良・北野勇美・永井昭人  
西岡 佑・一ノ瀬真理子

印刷：いんさつのきんき  
有限会社 近畿情報開発  
〒662-0864 西宮市越水町1-4  
TEL.0798-81-3550





## にしのみや環境サポート協同組合

〒662-0854 西宮市櫛塚町 3 番 5 号

Tel.0798-36-7806

Fax.0798-36-1520

E-mail nesc-s@nesc.info

